

震災時、茅ヶ崎市では 『火災』 が怖いって知っていますか？

火災から命を守る大切な心得

Contents

-  P2 大地震が起きたら市街地は大規模大火災に？
茅ヶ崎市のクラスターは県内最大規模
-  P3 茅ヶ崎市クラスター分布図
-  P4～6 これだけは覚えておきたい 地震火災の心得3箇条
 - 心得1 火災は起こさない！
 - 心得2 火災はすぐ消す
 - 心得3 広い場所に避難する
-  P7 火災に強いまちづくりを目指して
-  P8 地震時の避難・行動フローチャート

大地震が起きたら市街地は大規模火災に？ 茅ヶ崎市のクラスターは県内最大規模

茅ヶ崎市は1件の火災から大規模な火災に発展する危険性が高い都市構造だということが、平成20年度に市が実施した「地震による地域危険度測定調査」により分かりました。また、県の地震被害想定でも、火災により甚大な被害が見込まれています。

今回の市政情報紙では、地震火災から命を守る方法を考えます。



道路が狭いと消防車も入りにくい

なぜ大地震が起これると火災による被害が大きいと予想されるのでしょうか

木造家屋が密集し、狭い道路が多く火災が焼け止まらず広がる都市構造

茅ヶ崎市では、木造家屋が密集しており、道幅の狭い道路が多いため、地震によりひとたび火災が起これると、火を消し止めることができれば、火元の家屋から周辺の家屋へ次々と火災が延焼拡大し、燃え広がってしまいます。このような延焼する危険性を「クラスター（延焼運命共同体）」という言葉で表しています。



阪神・淡路大震災での火災の様子

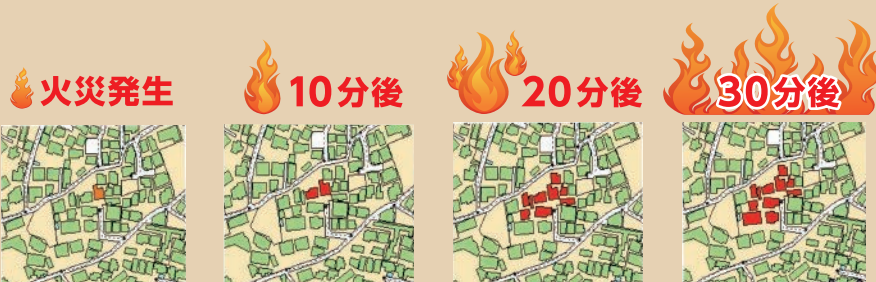
クラスター（延焼運命共同体）

クラスターとは、延焼被害が起きた場合、運命を共にする建築群のことをいい、クラスター内の建物から1件でも出火しそのまま放置した場合、クラスター内の建物全てが焼失する単位のことをいいます。JR東海道線より南側の巨大なクラスターは県内最大規模となります。

（P3 クラスター分布図参照）

《風向：北東 風速6mの気象条件で火災が起きた場合のシミュレーション》

1棟の火災を放置するとあっという間に広がってしまう



消防研究センター提供「延焼シミュレーションソフト」より作成

茅ヶ崎市クラスター分布図

大規模火災から避難する場所

広域避難場所

木造密集地域から遠く離れた広い場所へ
避難して火災の熱から逃れてください！

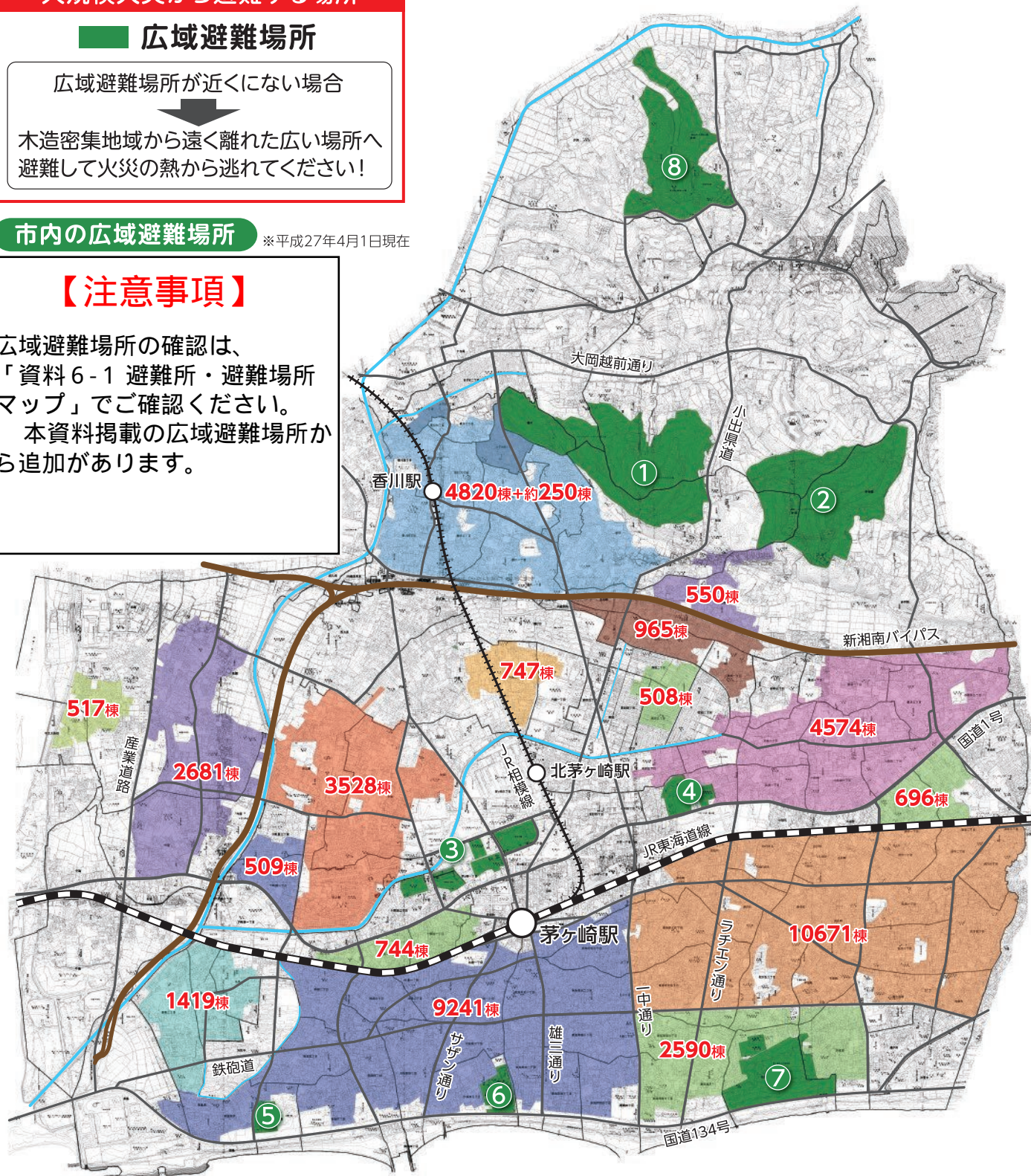
*地図上の赤い数字は、1件の火災を放置した際に延焼運命を共にする焼失棟数

市内の広域避難場所

※平成27年4月1日現在

【注意事項】

広域避難場所の確認は、
「資料6-1 避難所・避難場所
マップ」でご確認ください。
本資料掲載の広域避難場所か
ら追加があります。



※風向：北北東 風速6mの気象条件で測定した結果です。気象条件によっては、クラスターの範囲も異なります。

出典：『地震による地域危険度調査測定調査 平成25年度 検証結果』クラスター分布図改編

これだけは覚えておきたい

地震火災の心得3箇条

延焼危険の高い木造密集地域に住む私たちが、震災時に火災からの被害を最小限に防ぐためには、日頃からの一人一人の備えが重要です。地震火災から命を守るには、どのようにすればいいのでしょうか。必ず覚えてほしいポイントを3つに分けて説明します。

【感震ブレーカーなどの種類】



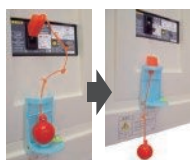
分電盤タイプ

センサーが揺れを感知し、一定時間後にブレーカーが落ち電気を遮断



コンセントタイプ

センサーが揺れを感知し、当該コンセントのみの電気を即遮断



簡易タイプ

重りの落下やバンドの作動によりブレーカーが落ち電気を即遮断

近年の大地震では、停電から電気が復旧した時に断線したコードから火花が出たり、白熱球や電気ストーブ等の電化製品が作動したりして、近くの燃えやすいものに火が付くなど、通電火災と呼ばれる電気に起因する火災が多発しました。火災を1件でも減らすためには「地震が起きたらブレーカーを落とす」ことが有効です。非常時に冷静に行動することは難しいので、地震を感知し自動でブレーカーを遮断する『感震ブレーカー』などをあらかじめ取り付けておくのも有効です。避難する時は、必ずブレーカーが落ちていることを確認してから家を離れましょう。

阪神・淡路大震災や東日本大震災などの大規模地震時に発生した火災の過半数が電気に起因する火災

心得その① 火災は起こさない！
火災予防のカギは「電気」

火災リスクを減らすには出火そのものを防ぐ対策が有効

木造密集地域の延焼危険を減らす対策としては、建物の不燃化推進や住民による初期消火体制の構築が重要で、これまでもおり地道にすすめていく必要があります。一方、阪神・淡路大震災や東日本大震災など最近の地震火災の半数は電気に関係する火災であることがわかっています。従って、地震時に揺れを感じて自動的に電流を遮断する感震ブレーカーが普及することは、地震による出火件数を半減させることが期待できるもう一つの有効な対策です。



「大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会」
座長 関澤 愛氏（東京理科大学大学院国際火災科学研究科 教授）

電気火災を未然に防ぐには

対策1 感震ブレーカーを取り付け、ブレーカーの落とし忘れのないよう徹底しましょう！

対策2 避難などで家を離れる時はブレーカーが落ちていることを確認しましょう！

心得その② 火災はすぐ消す

火災を消す
チャンスは「時間との勝負」

初期消火
(出火～5分以内)



地震の際、火災が起きてしまった場合はどうすればいいのでしょうか？火災を放置すれば、自宅はおろか周りの家々に火がどんどん燃え広がってしまいます。

初期消火のチャンスは、火が天井に届くまでの2～5分程しかありません。すばやく消火活動するため、**一家に1本消火器を備えておきましょう。**

地域の一人一人が、火が小さいうちにしっかり消し止められるよう初期消火の準備をすることが、被害を最小限に抑える一番の特効薬となります。



一家に1本必需品！
『消火器』

火が天井に届いてしまったら…

初期消火から延焼阻止へ

延焼阻止
(出火～15分以内)



木造家屋は火のまわりが速く、火災発生から5分程で天井に火が届き、10分が経過する頃には建物全体に火がまわり、10～15分が経過する頃には隣の家に燃え移り始めます。

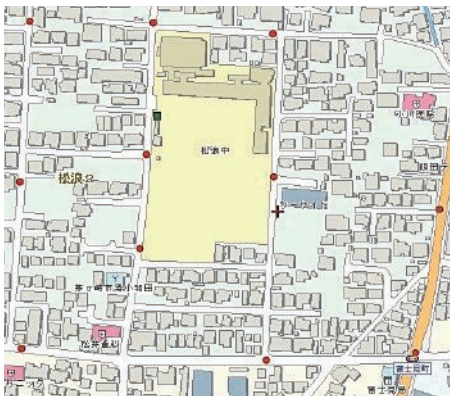
火元の家から隣の家に燃え移る前の段階であれば、市内各所に設置されている「**移動式ホース格納箱**」と**消火栓**を使った消火活動で延焼を止められる可能性が高まります。

しかし、延焼を止められず火災が拡大した場合は、身を守ることを考え直ちに消火活動を止め、安全な場所へ避難してください。



『移動式
ホース格納箱』

茅ヶ崎市ホームページ内の「**まっぷdeちがさき**」で
消火栓の場所を確認することができます！



マップ上の●が消火栓

道路上のオレンジで塗装された
マンホールが消火栓



↑消火栓のマンホールは
他にも数種類あります

地域で移動式ホース格納箱の
取扱い訓練をしましょう



団体でお申し込みいただければ、訓練指導に伺います

問合せ：消防本部警防救命課
☎0467(85)9945

火災を消すには…

- 対策1 天井に火が届くまでの2～5分以内に消火器で初期消火！
- 対策2 移動式ホース格納箱を使って消火栓から放水して延焼阻止！
地域で事前に取り扱い訓練をしましょう！

火災からの距離と人体への危険性のイメージ(風速6mの気象条件の例)



避難所が安全な場所とは限らない
火災を消すことができず、次々と家に延焼してしまつた場合、どこへ避難しますか？ほとんどの人が、「避難所(小中学校)へ駆け込む」と答えるのではないのでしょうか。

しかし、時と場合によつて、避難所に逃げることに命を危険にさらす場合があるのです。大規模火災に発展し、木造密集地域内の避難所に火災が迫つた場合、図のように学校のグラウンドに避難して

でも火災の熱風などに襲われ、命の危険にさらされる場合があるのです。

熱の届かない広い場所へ早めの避難
大規模火災から避難するには、**火災の熱が届かない広い場所**でなくてはなりません。

市では、火災から逃げる場所として『**広域避難場所**』を指定しています。また、家の近くに広域避難場所がない場合は、**木造密集地域から離れた広い場所**へ逃げましょう。火災に囲まれて逃げ場を失わないように、火災が迫ってくる前に、早めに避難しましょう。

災害リスクがなくなつてから避難所へ
地域で火災が起きているうちは広域避難場所へ行き、**火災の危険性がなくなつてから避難所で避難生活を送りましょう。**

避難先の選択と順序が生死を分ける重要な力ギとなります。避難は命を守る最後の砦です。事前に避難先と避難ルートを確認しましょう。

心得その③ 広い場所に避難する

大規模火災から避難する場所は「避難所ではなく広域避難場所」

避難先は1か所ではありません！

地震火災から身を守るには広域避難場所が有効ですが、時と場合によってはその場所が危険になることもあります。たとえば海や川のそばで揺れを感じた時は、津波から身を守るため、高台に避難することが最優先となります。また、最初は安全だった場所も、状況の変化で次の避難場所に移らなければならないこともあります。

災害に「絶対」はありません。刻々と変わる状況を見ながら正しい情報を収集して判断し、安全な場所へ逃げましょう。

震災時の避難先

① 広域避難場所

大規模火災の熱から避難する場所



木造密集地域から離れた広い場所や空き地、ビル群なども広域避難場所の代わりになります

② 避難所

災害の危険性がなくなった後に避難生活を送る場所



火災の危険性がなくなつてから避難所へ

火災から避難するには

対策1 あわてず正しく情報を収集して、適切な避難行動を

対策2 大規模火災の場合の避難先は、広域避難場所か、火災の熱が届かない広い場所へ。事前に避難先と避難ルートを確認しましょう

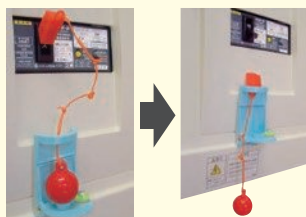
1

防災まちづくりから応援ツール

「防災まちづくりから応援ツール」とは 地震による被害を最小限にするために必要不可欠な、地域の防災まちづくりを応援するツールです。平成28年度からの全市域導入に向けて、JR東海道線より南側の地域で試行的に実施します。

《内容》 地域が取り組む火災対策(出火・初期消火および避難対策)を応援します!

①感震ブレーカーの設置
(出火対策)



②住宅用自動消火装置設置
(初期消火対策)



③家具転倒防止金具の取り付け支援(避難対策)



④沿道景観形成
(避難対策)



ツールの導入で地域の防災力アップに期待しています

「湘南地区では、これまでもさまざまな防災・減災対策に地域として取り組んでまいりましたが、さらなる地域力の向上を図るため、この応援ツールの導入について、まさに地域で検討を進めているところです。これからも、“地域社会とのつながり、結びつきで「災害に強いまちづくり」をスローガンに、地域防災力の向上を図っていきます。



湘南地区まちづくり協議会 会長 後藤 金蔵さん

問合せ ☎0467(82)1111 都市政策課

火災に強いまちづくりを目指して 茅ヶ崎市の取り組みを紹介します

2

移動式ホース格納箱

震災時の消火活動に有効な移動式ホース格納箱を、平成25年～27年の間に市内約500か所に配置する予定です。ホース格納箱は、収納されている消火器具を消火栓につなぐことで、震災時に消防車の到着を待たずに消火活動を行うことができます(消火栓の使用は震災時に限られています)。いつ起こるかわからない災害に備え、自宅付近の消火栓と移動式ホース格納箱の場所を確認しておきましょう。



消火栓のある場所まで簡単に移動できます。気づきにくい設置場所等にはプレート(写真右)がついています。

3

市民まなび講座

市の職員が市民のみなさんのもとに出向いて行う「市民まなび講座」(無料)で、防災についての知識や消火技術を身につけることができます。これらの講座を活用し、いざという時に役立てましょう。



「茅ヶ崎の災害のリスク(倒壊・津波・火災)を知る」

茅ヶ崎の地震災害の特徴を知り、災害に備える際のポイントについて学びます。

問合せ・申込み ☎0467(82)1111 防災対策課

「移動式ホース格納箱を活用した取扱い訓練」

大規模災害時に発生した火災の延焼を阻止するための実技訓練を行います。

問合せ・申込み ☎0467(85)9945 消防本部警防救命課

地震時の避難・行動フローチャート



自分の避難先について事前に確認しておきましょう

- 私の家の近くの広域避難場所は _____ です
- 近くに広域避難場所がない時は _____ へ
- 私の家の近くの避難所は _____ です

！ 地震火災は、事前の備えで大きく被害を軽減することができます。いざという時に命を守れるように、一人一人が正しく備えましょう！

〈役立ちサイト〉

茅ヶ崎市防災情報 <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/bosai/>
まっぴdeちがさき <http://www2.wagamachi-guide.com/chigasaki/top/>



発行／茅ヶ崎市 編集／秘書広報課 防災対策課 都市政策課 警防救命課

〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号 ☎0467(82)1111 FAX0467(87)8118

URL <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/> 携帯用サイト <http://mobile.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

茅ヶ崎市携帯用サイト
QRコード

